

表 1. 岐阜市民病院内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系診 療科数	内科指導 医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	岐阜市民病院	555	229	8	37	25	15
連携施設	岐阜大学医学部附属病院	606	165	5	39	34	24
連携施設	岐阜県総合医療センター	620	223	12	27	30	2
連携施設	岐阜赤十字病院	311	103	9	4	7	1
連携施設	高山赤十字病院	375	95	5	6	6	1
連携施設	羽島市民病院	271	147	7	1	3	1
連携施設	大垣徳洲会病院	283	50	5	0	0	0
連携施設	下呂温泉病院	206	142	6	3	2	2
連携施設	長良医療センター	327	147	6	6	5	0
連携施設	中濃厚生病院	495	219	8	7	15	1
連携施設	河村病院	315	230	6	3	4	0
連携施設	美濃病院	122	122	2	1	0	0
連携施設	愛知医科大学病院	900	276	11	74	47	10
連携施設	国立国際医療研究センター 病院	719	他科混合	10	55	33	18
連携施設	中部国際医療センター	502	135	8	21	14	4
連携施設	多治見市民病院	250	128	11	10	4	1
連携施設	岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院	315	0	1	1	3	0
連携施設	郡上市民病院	144		2	2		0
連携施設	松波総合病院	501	194	8	31	26	48
連携施設	西濃厚生病院	400	176	10	9	10	2
連携施設	岐北厚生病院	262	130	8	5	4	0
連携施設	大垣市民病院	817	227	7	24	22	4
連携施設	藤田医科大学病院	1,376	378	12	60	78	19
連携施設	下呂市立金山病院	50		1	2	2	0
連携施設	久美愛厚生病院	300	130	3	6	7	2
連携施設	国民健康保険 飛騨市民 病院	81	45	5	1	1	0
連携施設	大阪公立大学医学部附属 病院	965	234	12	90	75	11
連携施設	関西電力病院	400	191	10	24	21	7
特別連携 施設	岐阜清流病院	363	120	7	0	3	0
特別連携	澤田病院	190	150	5	4	4	0

施設							
特別連携施設	まっなみ健康増進クリニック	0	0	7	0	0	0
特別連携施設	恵那市国民健康保険岩村診療所	0	0	1	0	0	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
岐阜市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜県総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜赤十字病院	×	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
高山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
羽島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	△
大垣徳洲会病院	△	○	○	△	△	○	△	×	△	△	×	×	△
下呂温泉病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長良医療センター	△	△	○	△	△	×	○	×	△	○	○	○	△
中濃厚生病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
河村病院	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△
美濃病院	○	○	○	○	○	△	△	×	△	△	△	△	△
愛知医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中部国際医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多治見市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	△	○	○
郡上市民病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○
松波総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西濃厚生病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○
岐北厚生病院	△	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○
大垣市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
藤田医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下呂市立金山病院	○	△	△	○	○	△	△	×	△	△	△	△	○
久美愛厚生病院	△	○	○	△	△	△	○	△	△	△	△	○	○
国民健康保険 飛騨市民病院	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	△	○	○
大阪公立大学医学部附属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

病院													
関西電力病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜清流病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
澤田病院	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×
まつなみ健康増進クリニック	△	△	△	△	△	△	△	△	×	△	△	×	×
恵那市国民健康保険岩村診療所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○，△，×）に評価しました。

（○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない）

1) 専門研修基幹施設

岐阜市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・岐阜市正職員または非常勤嘱託員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(岐阜市役所職員厚生課)があります。 ・ハラスメント委員会が岐阜市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・総合内科専門医が 24 名在籍しています（下記） ・内科専門研修プログラム管理部会（統括責任者（診療科副部長），統括副責任者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催（2026 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2025 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（市民公開講座；2025 年度実績 6 回）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 15 体, 2024 年度 8 体, 2025 年度 15 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し，定期的開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理センターを設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表（2024 年実績 2 演題）をしています。
指導責任者	杉山 昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜市民病院は，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院であり，岐阜医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療

	にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名、日本消化器病学会消化器病専門医 14 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 11 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本老年医学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 23,739 名（1 ヶ月平均） 入院患者 15,275 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本内科学会認定医制度教育病院、日本リウマチ学会教育施設、日本東洋医学会研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会准教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本カプセル内視鏡学会認定指導施設、日本血液学会血液研修施設、日本輸血・細胞治療学会認定・臨床輸血看護師制度指定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設

2) 専門研修連携施設

1. 岐阜大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 1 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 約 20 演題）をしています。
指導責任者	大倉 宏之
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 39 名、日本内科学会総合内科専門医 34 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本内分泌学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 13 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専

	門医（内科）1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医3名、日本感染症学会専門医1名、日本老年医学会専門医2名、日本肝臓病学会専門医9名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 731 名（1 ヶ月平均） 入院患者 383 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院、日本消化器病学会認定施設日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓病学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本老年医学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本神経学会専門医研修施設、日本内科学会認定専門医研修施設、日本老年医学会教育研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本東洋医学会研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、ステントグラフト実施施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設

2. 岐阜県総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があり、24 時間利用可能です。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 27 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 8 体、2025 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	荒井 正純

	【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜県総合医療センターは岐阜市を含む岐阜地区での唯一の救命救急センターを運営している病院であり、「断らない医療」をモットーとしています。1次救急から3次救急に及ぶ大変多くの救急症例を受け入れており、そのために幅広い領域で豊富な症例を経験することができます。また、岐阜県総合医療センターが認定されている医療機関群Ⅱ群施設は大学病院本院に準じた病院とされており、若手医師の教育を重要な責務としているのみならず岐阜県内の医療をリードする役割を担うため、他院では行えないような高度先進医療にも積極的に取り組んでいます。多くの指導医・先輩医師による手厚い指導医体制も当院の特徴です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 27 名, 日本内科学会総合内科専門医 30 名, 日本消化器病学会消化器専門医 17 名, 日本循環器学会循環器専門医 15 名, 日本内分泌学会専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 5 名, 日本腎臓病学会専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名, 日本血液学会血液専門医 1 名, 日本神経学会神経内科専門医 4 名, 日本リウマチ学会専門医 3 名, 日本感染症学会専門医 3 名, 日本老年医学会専門医 1 名, 日本肝臓学会専門医 12 名, 日本消化器内視鏡学会 17 名, 日本臨床腫瘍学会専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,275 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 517 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設, 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ・Ⅱ, 日本腎臓病学会認定教育施設, 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設, 日本消化器内視鏡学会指導施設, 日本循環器学会循環器専門医研修施設, 日本肝臓学会認定施設, 日本透析医学会専門医制度教育関連施設, 日本血液学会認定専門研修教育施設, 日本神経学会専門医制度認定教育施設, 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設, 日本内科学会認定教育施設, 日本心血管インターベンション治療学会研修施設, 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修認定施設, 日本感染症学会認定研修施設, 日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設, 日本動脈硬化学会専門医教育病院, 日本病院総合診療医学会認定施設, 日本膵臓学会認定指導施設, 日本リウマチ学会教育施設, 日本脈管学会認定研修指定施設, 日本胆道学会認定指導医制度指導施設, 日本内科学会認定医制度教育病院, 日本気管食道科学会認定専門医研修施設, 臨床遺伝専門医制度研修施設 など

3. 岐阜赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されております。 ・常勤医として労務環境が保障されております。 ・メンタルヘルスに関する相談窓口が整備されており、職員とは直接関係のないカウンセラーに相談が出来る環境があります。 ・ハラスメント委員が各職種で任命されており相談可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室、宿直室等が完備されております。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 4 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、指導医が施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会は定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催して、専攻医へ参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。剖検数が少なく開催が困難な場合には、基幹施設や内科学会が企画する CPC の受講を促している。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (2025 年度実績 12 回) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち特に 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数が経験できます。

3) 診療経験の環境	
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会や同地方会にて年に 1 演題以上は学会発表をしております。
指導責任者	石森 正敏 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜赤十字病院は岐阜医療圏に位置する「災害拠点病院」「地域医療支援病院」「第一種・第二種感染症指定医療機関」として急性期から在宅医療まで岐阜市北部を中心に地域医療を学べます。また、地域医療に必要な知識、技術の習得はもちろん、対応できる人材の育成に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 1 名・専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名・専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名・専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名、日本肝臓学会肝臓指導医 1 名、日本血液学会血液指導医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,576 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 5,363 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の 12 分野及び 70 疾患群
経験できる技術・技能	急性期医療だけでなく地域医療支援病院として、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を行い、入退院支援員と共にチーム医療が経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本血液学会認定専門医研修教育施設

4. 高山赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスサポートチーム）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2025 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 12 回、感染対策 15 回) ・研修施設群合同カンファレンス (2026 年度予定) を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2025 年度実績 2 回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2025 年度実績 25 回)
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）すべての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2025 年度実績 4 演題)

指導責任者	福野 賢二
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名、専門医 1 名、日本循環器内科学会専門医 2 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本救急医学会指導医 1 名、専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 13,193 名 (1 ヶ月平均)、入院患者 9,181 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設 I、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本肝臓学会認定施設、日本血液学会専門研修教育施設、日本脳卒中学会研修教育病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本循環器科学会循環器専門医研修関連施設、日本病院総合診療医学会認定施設

5. 羽島市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2025 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2025 年度実績 0 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (2025 年度実績 12 回) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2024 年度実績 0 演題) をしています。
指導責任者	酒井 勉
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 384.5 名 (1 日平均) 入院患者 172.0 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 7 領域、25 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育関連病院、消化器病学会専門医研修施設、循環器病学会専門医研修施設 肝臓病学会認定施設、消化器内視鏡学会指導施設、内分泌代謝学会専門医研修施設、糖尿病学会教育施設、神経学会専門医準教育施設

6. 大垣徳洲会病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
--------------------------------	---

認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液、膠原病、感染症を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表はありません。（2014 年度実績 0 演題）
指導責任者	安藤 みゆき
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、日本肝臓病学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 2,041 名（1 ヶ月平均） 入院患者 385 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 4 領域、30 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本消化器学会胃腸科指導施設

7. 下呂温泉病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表はありません。（2025 年度実績 0 演題）
指導責任者	森田 浩之
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,572 名（1 ヶ月平均） 入院患者 3,798 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設

8. 長良医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 6 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 0 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、腎臓、血液を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	松野 祥彦
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名（ほか）
外来・入院患者数	外来患者 3,194.4 名（1 ヶ月平均） 入院患者 7,931.5 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 3 領域、22 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本感染症学会認定研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

9. 中濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が

【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計4演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	白木 亮 【内科専攻医へのメッセージ】 中濃厚生病院では豊富な救急医療の件数があります、また、病院全体の一日平均入院患者数は350人弱、一日平均外来患者数が約900名弱と患者数・症例が豊富であり、多くの症例を主担当医として経験でき実践的な研修が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6名、日本内科学会総合内科専門医 15名 日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本糖尿病学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名、 日本血液学会血液専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 1名、 日本リウマチ学会専門医 2名、日本感染症学会専門医 2名、 日本救急医学会救急科専門医 3名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 889.0名(1ヶ月平均) 入院患者 326.1名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本感染症学会研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本医学放射線学会専門医修練施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本病理学会研修登録施設、日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度認証施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、全国国民健康保険診療施設協議会地域包括医療・ケア認定施設

10. 河村病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2014年度実績 医療倫理1回、医療安全3回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	
指導責任者	橋本 恭成
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3名、日本内科学会総合内科専門医、4名、日本神経学会神経内科専門医 4名 ほか

外来・入院患者数	外来患者 3106.1 名（1 ヶ月平均） 入院患者 139.8 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連施設，日本神経学会認定教育施設，日本認知症学会教育施設

11. 美濃病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・病院任期付常勤医師として労務環境が保証されています ・ハラスメント防止に適切に対処する部署があります ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が完備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています - 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回（各複数回開催）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（美濃地区臨床研究会 年 6 回定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	内科系の学術集会あるいは同地方会の参加または発表等、学術研修活動を推奨支援しています。また研修に伴う費用の支援があります
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 横家 正樹 美濃市立美濃病院は、中濃医療圏に位置し地域中核病院として急性期から回復・維持期（慢性期）までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの経時的な診断・治療の流れを通じて、地域医療・社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来ます。
指導医数（常勤医）	日本循環器学会専門医 1 名（常勤）
外来・入院患者数	内科（1 か月実績） 外来：約 2,430 名 入院患者 80 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、40 疾患群の症例を経験することが出来ます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療なども経験出来ます。
学会認定施設（内科系）	日本地域医療学会 地域総合診療専門研修プログラム研修機関施設

12. 愛知医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型相当大学病院です。 ・研修に必要な医学情報センター（図書館）があり、文献検索や電子ジャーナルの利用が 24 時間可能なインターネット環境が院内全体に整っています。 ・専攻医は、愛知医科大学病院 助教（専修医）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直
--------------------------------	--

	室が整備されています。 ・臨床系女性教員の特別短時間勤務を実施しています。 ・敷地内に保育所『アイキッズ』があり、給食対応の実施を行っており、利用が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 74 名在籍しています（下記）。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全てで定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 12 演題の学会発表（2023 年度実績 49 演題：専攻医発表のみ）をしています。
指導責任者	高見 昭良 【専攻医へのメッセージ】 愛知医科大学病院内科は、消化管、肝胆膵、循環器、内分泌・代謝、糖尿病、腎臓・リウマチ膠原病、呼吸器・アレルギー、神経、血液の 9 診療科とプライマリーケアセンターを担当する総合診療科で構成されています。一般診療から高度な専門医療まで 74 名の指導医を中心に研修を行っており、「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例は全て網羅することができます。専門医取得や大学院進学もシームレスに行うことができる環境です。学会発表はもちろん、臨床研究および基礎研究の双方を行う環境も整備されています。最新の設備と充実した指導医の下で、内科専門医の第一歩をスタートしましょう。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 77 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 25 名、 日本循環器学会循環器専門医 24 名、 日本内分泌学会専門医 6 名、 日本糖尿病学会専門医 16 名、 日本腎臓病学会専門医 11 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 8 名、 日本神経学会神経内科専門医 16 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）6 名、 日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 3 名、 日本肝臓学会専門医 6 名、 日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 21 名
外来・入院患者数	外来患者 53,979 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 22,513 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設

	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	--

13. 国立国際医療研究センター病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立研究開発法人常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課労務管理室長担当）があります。 ・「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室などが整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。（条件あり）
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 55 名在籍しております。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を医療教育部門にて管理しております。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付けております。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）しております。 ・地域参加型のカンファレンス（糖尿病週間・世界糖尿病デー市民公開講座、新宿区練馬区合同消化器カンファレンス、城西循環器研究会、若松河田呼吸器研究会、吸入指導勉強会など；2014 年度実績 21 回）を定期的に開催しております。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 2 回：受講者 12 名）を促しております。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年実績 16 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験等審査会を開催（2023 年度実績 12 回）しています。

	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表（2014 年度実績 10 演題）をしています。
指導責任者	放生 雅章
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 55 名，日本内科学会総合内科専門医 33 名，日本消化器病学会専門医 17 名，日本肝臓学会専門医 4 名，日本循環器学会専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，日本呼吸器学会専門医 16 名，日本血液学会専門医 11 名，日本神経学会専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 6 名，日本感染症学会専門医 17 名，日本老年医学会専門医 0 名，日本救急医学会専門医 15 名
外来・入院患者数	内科外来患者 19,152 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 783 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 分野，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 （日本内科学会が定める 13 領域のうち、日本老年医学会を除く 12 学会の教育施設認定を受けています） 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 骨髓移植推進財団非血縁者間骨髓採取・移植認定施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本ペインクリニック学会認定医資格指定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本栄養療法推進協議会 N S T 稼働認定施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設認定

	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--	--

14. 中部国際医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人厚生会 後期研修医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています（下記参照）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者（糖尿病センター長・内科部長、総合内科専門医かつ指導医）、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科代表）、連携施設担当委員、及び事務局代表者で構成されます。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2025 年実績 18 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2025 年実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の研修会・カンファレンス（医療従事者研修会、可茂循環器セミナー、中濃医学セミナー、糖尿病オープン教室、緩和ケア研修会など：2025 年実績 29 回）を定期的開催し、専攻医に受講を推奨し、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査の際には、臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年 4 体、2024 年 2 体、2023 年 3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、不定期に開催（2025 年実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、不定期に受託研究審査会を開催（2025 年実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年実績 3 演題）をしています。
指導責任者	高見和久 【内科専攻医へのメッセージ】 中部国際医療センターは、岐阜県中濃医療圏の中心的な急性期病院であり、中濃医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。極ありふれた Common disease から学会報告しうる稀で貴重な症例にいたるまで幅広く経験でき、無理なく専攻医として必修とされる症例を主担当医として受け持つことができます。 また多職種のスタッフが一丸となって専攻医のために研修をサポートする体制が備わっており、夢中で過ごした初期研修のあと、じっくりと内科学の研鑽、習熟するに最適な環境のもと内科専門医を目指して下さい。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 3 名 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名 他
外来・入院患者数	外来患者：27,387 名（1 ヶ月平均） 入院患者：14,070 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域の内、概ね60疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、福祉連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器科学会 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本腎臓学会 研修施設 日本透析医学会 専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会 指定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本臨床細胞学会 施設認定 日本肝臓学会 認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会 認定新家庭医療後期研修プログラム 日本病理学会 研修登録施設 など

15. 多治見市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネットの環境が整備されています。 ・適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務課）があります。 ・ハラスメントに対しても適切に対処します。（総務課） ・女性専攻医が安心して勤務できる休憩室や更衣室、男女別のシャワー室等が完備されています。 ・敷地内に保育所があり利用可能となっています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・総合内科専門医が4名在籍しています。 ・内科指導医が10名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理部にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（市民公開講座等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。 ・毎週水曜日 内科総合カンファレンス実施します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち消化器分野、循環器分野、腎臓分野、リウマチ膠原病分野、呼吸器・アレルギー分野、内分泌・糖尿病分野では専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をします。 - 日本内科学会認定JMECCインストラクターコース

指導責任者	氏名：今井裕一 【専攻医へのメッセージ】 当院の特徴は、週1回内科医師、救急総合診療部、看護師・薬剤師・検査技師を含めた内科総合カンファランスを行なっていることです。肺炎・尿路感染症・敗血症から各診療科の稀な疾患まで幅広く症例呈示があり、意見交換しています。胸部・腹部 CT の読み方、心電図・心カテの所見の見方、消化管内視鏡治療の最前線まで学修できます。さらに電解質異常や内分泌疾患の発見のこつなども教わります。common disease の治療の総合内科医としてどの分野の医師であっても行なうことができるようなシステムにしています。将来どのようなサブスペシャリティーを専攻しても、内科医としての基本を充分修得できるシステムです。1年6か月で日本内科学会の提示する基準を達成できるようにします。さらに、主担当医として診療にあたり、医学的面だけではなく、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医に成長します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名 日本内科学会総合内科指導医 1 名・専門医 3 名 日本専門医機構 日本消化器病学会消化器専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 2 名 日本肝臓学会 肝臓専門医 1 名 日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本不整脈心電学会不整脈専門医 1 名 日本腎臓学会腎臓指導医 2 名・専門医 1 名 日本リウマチ学会指導医 2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本糖尿病協会療養指導医 1 名 日本甲状腺学会甲状腺専門医 1 名 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医 1 名 日本専門医機構 内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医 1 名 日本甲状腺学会甲状腺専門医 1 名 日本認知症学会指導医 1 名 日本神経内科学会神経内科指導医 1 名 日本臨床免疫学会免疫療法認定医 1 名 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 1 名 心臓リハビリテーション指導士 1 名 日本骨粗鬆学会認定医 1 名 日本がん治療認定医機構 認定がん治療認定医 1 名 日本救急医学会 認定救急専門医 1 名 日本蘇生学会 指導医 1 名 日本専門医機構 総合診療特任指導医 3 名 日本プライマリ・ケア連合学会 指導医 1 名 日本臨床免疫学会 免疫療法認定医 1 名 JMECC インストラクター 1 名 他
外来・入院患者数	外来患者数 (1ヶ月平均) : 10,070 名 入院患者数 (1ヶ月平均) : 6,057 名 2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域における 2 次救急医療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会内科専門医研修施設 日本消化器病学会消化器専門医指導連携施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本循環器科学会循環器専門医研修関連施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本甲状腺学会甲状腺専門医教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医教育施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 など

16. 岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2018 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 12 回、感染対策 12 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与

	えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績なし）をしています。
指導責任者	前田 晃男
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科） 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,591 名（1 ヶ月平均） 入院患者 5,601 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設

17. 郡上市民病院.

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急のほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 0 演題）をしています。
指導責任者	畑佐匡紀 【内科専攻医へのメッセージ】 郡上市民病院は、山紫水明の町である郡上市八幡町内に位置し、東海北陸自動車道郡上八幡インターから車で約 1 分の所にあります。郡上市は、高山市に次いで広大な面積を有し、当院はその中核病院としての役割を担い、プライマリーケアを含めて多種の疾患の患者様を診させていただいています。自然あふれる環境の中での研修を体験してみませんか。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,908 名（1 ヶ月平均） 入院患者 940 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など
-----------------	---------------------------

18. 松波総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、当直室が完備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 31 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療科部長）専門医研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹内施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度関連施設にて開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記） ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 48 体、2024 年度実績 45 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書コーナー、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 3 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 4 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	田上 真 【内科専攻医へのメッセージ】 松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 31 名 日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 6 名、他
外来・入院患者数	外来患者 13,916 名（実数） 入院患者 9,968 名（実数）
経験できる疾患群	13 領域のうち、地域中核病院として 12 領域 65 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く学ぶことが出来ます。 急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 認定医制度教育病院 日本内科学会 専門医研修基幹施設 日本循環器学会 認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設

	日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本超音波学会 認定超音波専門医研修施設 日本消化器病学会 専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会 指導医施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌代謝学会 内分泌代謝科認定教育施設 日本高血圧学会 専門医認定施設 日本透析医学会 教育関連施設 日本感染症学会 連携研修施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定施設 日本臨床細胞学会 認定施設 日本病院総合医学会 認定施設 日本腎臓学会 認定施設 日本胆道学会認定指導医制度 指導施設認定 日本血液学会 専門研修認定施設 日本肥満症学会 肥満症専門医認定施設 日本膵臓学会 認定指導施設 など
--	--

19. 西濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室・インターネット環境を整備しています。 ・西濃厚生病院医師として、就業環境等が保障されます。 ・メンタルストレス並びにコンプライアンスに適切に対応する部署（企画総務課）があります。 ・監査室・内部統制室が岐阜県厚生連本所に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は9名在籍しています。 ・研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全並びに感染対策研修会を定期的に開催（半期に一度）し、専攻医に受講を義務付けます。 ・定期的なカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付けます。 ・CPC の開催時に、専攻医の受講を義務付けます。 ・定期的な地域との症例検討会等へ、専攻医に参加を義務付けます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・内科領域 13 分野すべてを経験できます。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会において、年間で計1演題以上の学会発表を行います。
指導責任者	足立 政治 【内科専攻医へのメッセージ】 西濃厚生病院は西濃医療圏に位置し、西濃北部地域の中核病院として急性期・回復期・地域包括ケア、緩和ケア並びに予防医療（検診）までの基礎的、専門的な医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じ、社会的背景・療養環境調整をも包括する医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名、日本総合内科専門医 10 人、日本消化器病学会消化器病指導医 3 名、日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、日本肝臓病学会指導医 1 名、日本血液学専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名
外来・入院患者数	外来患者 11,398 名、入院患者 8,269 名（いずれも R7 年度 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	13 領域の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	・内科専門医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く行います。 ・急性期医療に留まらず、がん患者の診断・治療、緩和ケア、終末期医療などを通じ、地域に根ざした医療や病診連携・病病連携等が経験できます。

学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医教育関連施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設 ・日本肝臓学会認定施設
-----------------	---

20. 岐北厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	研修に必要な研修室、図書室、インターネット環境を有します。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	総合内科専門医が4名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理部にて基幹施設（市民病院）との連携を図ります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	内科領域 13 分野のうち主に 6 分野において重点的に深い研修ができます。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	臨床研究と必要な図書室を有します。積極的な学会、研究会への参加を奨励しています。
指導責任者	早川 和良
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名, 日本内科学会総合内科専門医 4 名, 日本消化器病学会消化器病専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名, 日本透析医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来 5,538 人 (1 か月平均) 入院 5,589 人 (1 か月平均)
経験できる疾患群	13 領域のうち、6 分野について特に重点的に研修できます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例を経験しながら修得できます。 急性期医療に加え、地域社会に根づいた超高齢社会に対応した診療、病診連携、病病連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本肝臓学会関連施設

21. 大垣市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大垣市民病院正規職員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時

	間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院連携カンファレンス 2023 年度実績 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群の全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 6 体、2022 年度 9 体、2023 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し開催（2023 年度実績 8 回）しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し開催（2023 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	傍島 裕司 【内科専攻医へのメッセージ】 大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約 38 万人）の中核病院で、救急医療が盛んで一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（http://www.ogaki-mh.jp）を見ていただければわかりますが英語を含めた多くの論文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会 1 名
外来・入院患者数	外来患者 15,418 名（1 ヶ月平均、延べ、時間外を含む）、入院患者 8,744 名（1 ヶ月平均 延べ） 内科分のみ
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設

	日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペースティング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 スtentグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	---

22. 藤田医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 60 名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 10 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2025 年度実績 27 演題）
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 藤田医科大学病院には 12 の内科系診療科（救急医学・総合内科、循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器内科、血液・細胞療法科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、臨床腫瘍科、脳神経内科、認知症・加齢脳科学科、感染症科）があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。また、救急疾患は高度救命救急センター（NCU, CCU, 救命 ICU, GICU, ER, 災害外傷センター）および各診療科のサポートによって管理されており、大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾張東部医療圏の中核病院としての一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することが可能です。院内では各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードなど多職種合同検討会やアレルギー研究会など科を越えた勉強会検討会も多く実施しております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 60 名 日本内科学会総合内科専門医 69 名 日本消化器病学会消化器病専門医 17 名 日本循環器学会循環器専門医 16 名 日本内分泌学会専門医 11 名 日本糖尿病学会専門医 8 名

	日本腎臓学会専門医 10 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 21 名 日本血液学会血液専門医 10 名 日本神経学会神経内科専門医 7 名 日本アレルギー学会専門医（内科） 5 名 日本リウマチ学会専門医 13 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本救急医学会救急科専門医 21 名
外来・入院患者数	外来患者 3,867.5 名（2025 年度 1 日平均） 入院患者 1,357.0 名（2025 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度専門研修プログラム 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

23. 下呂市立金山病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・協力型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・下呂市正職員または非常勤嘱託員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（下呂市役所人事課）があります。 ・ハラスメント委員会が下呂市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、当直室、更衣室、が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・合内科専門医が 2 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理部会（責任者（副院長）、と内科部長（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 ・連携施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の内、主に総合内科、内分泌、代謝、救急において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。

認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年実績 2 演題）をしています。
指導責任者	木村 美香 【内科専攻医へのメッセージ】 下呂市立金山病院は、岐阜県飛騨医療圏の最南端に位置し、山間地域における急性期及び回復期を担う病院です。基幹施設の連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 2,607 名（1 ヶ月平均） 入院患者 646 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の内、主に総合内科、内分泌、代謝、救急。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。 回復期医療を中心に急性期医療や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	なし

24. 久美愛厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・久美愛厚生病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。 ・ハラスメントに対する窓口を設置し、男女別の担当者を配置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 7 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 4 回） ・C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 2 回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、代謝、神経、血液、腎臓については外来診療の研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表をしています。（2022 年度実績 1 演題）
指導責任者	横山 有見子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、飛騨地域において急性期医療から慢性期にいたるまで、また、予防医療についても役割を担っており、地域に根付いた全人的な内科診療を経験することができます。急性期病棟の他、感染症病床、結核病床、地域包括ケア病棟や療養病棟もあり、幅広い医療の研修が可能です。 内科は専門で細分化されていません。コモンな疾患から希な疾患まで、幅広く診療できるように優先的に主治医になっていただきます。入院患者の主治医になっていただき、副主治医として各専門科の指導医が担当します。外来は、初診外来を担当していただきます。再診枠については、6 カ月以下の研修の場合は曜日を固定せず、専攻医の希望の日時に予約を入れて診察します。へき地診療所の診察に出張していただく場合があります。
指導医数	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専

(常勤医)	門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1,427 名 (1 ヶ月平均)、入院患者 5,460 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	・きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

25. 国民健康保険 飛騨市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 (メディカルオンライン・今日の診療・医中誌Web・UpToDate) ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2025年度実績 医療倫理0回、医療安全2回、感染対策2回) ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。C P Cを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2025年度実績0回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2025年度実績2回)
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	工藤 浩
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名 日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 1名 日本専門医機構総合診療専門医 1名、指導医 1名 日本消化器病学会消化器病指導医 1名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2名、指導医 1名 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2名 日本老年医学会指導医 1名、日本地域医療学会指導医 2名
外来・入院患者数	外来患者 4,583 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 1,575 名 (1 ヶ月平均) 延数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 プライマリ・ケアの症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医及び総合診療医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本地域医療学会地域総合診療専門医「専門研修プログラム」研修施設

26. 大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。 ・ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 90 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療安全 11 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度剖検実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 12 演題）をしています。
指導責任者	繪本 正憲（大阪公立大学内科連絡会教授部会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 90 名、日本内科学会総合内科専門医 79 名、日本消化器病学会消化器専門医 28 名、日本循環器学会循環器専門医 14 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名、日本血液学会血液専門医 14 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 22 名、日本アレルギー学会専門医（内科）4 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 9 名、日本老年学会老年病専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 8 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 148,884 名（2025 年度 延べ数） 入院患者 80,445 名（2025 年度 延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、

	日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設 など
--	---

27. 関西電力病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・関西電力病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：西部大阪肝胆膵疾患地域連携会・市民公開講座、市民講座 本当に大切な肝臓・胆道・膵臓、関西電力病院レントゲン読影会、関西電力病院糖尿病フォーラム、Kansai Diabetes Network Seminar、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、地域の糖尿病診療を考える会、KDF 研究会、糖尿病フォーラム、中之島循環器フォーラム）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020~2023 年度 28 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	加地 修一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 関西電力病院は 400 床を有する全国的にも珍しい企業立病院ですが、関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3%にすぎず、地域に開かれた地域中核病院です。地域医療に貢献するべく、近年は救急医療にも注力しています。病院は高層で堂島川に面し、さらに高いビル群に囲まれた都会的な環境にある一方、周辺は古い下町の面影も残

	しています。 内科には循環器内科，血液内科，消化器内科，糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓内科，呼吸器内科，脳神経内科，腫瘍内科，リウマチ・膠原病内科の9専門科および緩和医療科があり，充実した指導医スタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます。中規模病院であるため，診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります。 当院のプログラムでは，できるだけ専攻医の希望に沿ったローテートを予定しており，指導医は，知識，技術の指導を細やかに行うとともに，キャリアプランなど様々な相談に応じています。各専門科で早期に十分な症例数を経験できるため，後半には subspecialty を目指す研修も可能です。 連携病院は京都大学医学部附属病院，大阪公立大学医学部附属病院，北野病院，大阪赤十字病院，神戸市立医療センター中央市民病院，県立尼崎総合医療センターなど大規模病院と相互連携している一方，守口敬仁会病院，丹後中央病院とも連携しており，最新の医療から地域医療まで広い範囲の研修が可能です。 一方，病院には関西電力医学研究所が併設されており，基礎および臨床研究に携わることが可能です。このような学術的環境は大学病院以外ではなかなか体験できないと思います。指導医，スタッフは学術的に優れた人材がそろっています。 アカデミックな環境で，臨床医としての修練を積んでみませんか。そのような意欲的な人材を求めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 5 名ほか日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 5 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 805 名 (1 日平均) 入院患者 310 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本栄養療法推進協議会 N S T 移動施設認定 日本肝臓学会専門医施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本気管食道科学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） 日本透析学会認定施設 など
--	--

3) 専門研修特別連携施設

1. 岐阜清流病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液を除く、ほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等 内科関連学会に積極的に参加しています。
指導責任者	越路正敏 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟を有し、急性期から回復期ならびに慢性期という、一患者の疾患発症から在宅までの一連の診療の研修が可能です。人工透析施設や緩和ケア病棟を有し、特殊な病態の専門的な研修を経験できます。また、コメディカルスタッフとの距離感も近く、チーム医療を研修するにも良い環境です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本消化器学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医/専門医 1 名、日本肝臓学会指導医/専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、日本救急医学会専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 6470 名（1 ヶ月平均） 入院患者 258 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患や血液疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざす医療、病診・病病連携なども経験できます。

2. 澤田病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています ・ハラスメントを担当する責任者が選任されております。 ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理 し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・院内感染防止対策委員会を毎月行い、定期的に講習会も開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器、呼吸器、総合内科、腎臓の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本透析医学会に年間で 2～3 演題の学会発表をしています。
指導責任者	長田紀淳 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、一般、療養病棟に加え約 200 名の透析患者を診療しています。入院患者、外来患者の急性期から慢性期疾患の研修が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本血管外科学会指導医 1 名、臨床研修指導医 2 名 (内科、整形外科)
外来・入院患者数	外来患者 4,338 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 4,721 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

3. まつなみ健康増進クリニック

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書とインターネット環境が併設の松波総合病院にあります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (健康管理室) が法人内にあります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、当直室が法人内に完備されています。 ・法人内に院内託児所があり、24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に法人内で開催 (2024 年度実績 6 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である松波総合病院で行う CPC (2024 年度実績 12 回)、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、その為の時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、腎臓の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・法人内で日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2024 年度実績 3 演題) をしています。
指導責任者	花立 史香 【内科専攻医へのメッセージ】 松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者 6,915 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	健診・検診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、退院後の外来でのフォロー、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 入院が必要な患者の総合病院との病診連携。地域の内科病院としての外来診療。

4. 恵那市国民健康保険岩村診療所

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書とインターネット環境が併設の松波総合病院にあります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が完備されています。 ・法人内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に法人内で開催（2022 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、呼吸器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	
指導責任者	前野 禎 【内科専攻医へのメッセージ】 広範囲な疾患について病診連携を行っています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者 645 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。